

歴史学習における水文化教育のあり方

— 環境教育としての水文化教育の構想と実践（その1） —

立花 禎唯

高槻市立松原小学校

An Ideal Method of Water Culture Education in History Studies:
the Design and Practice for Water Culture Education as Environmental Education (1)

Yoshitada TACHIBANA

Matsubara Elementary School, Takatsuki-City

(受理日2005年3月18日)

1 はじめに

21世紀は「水の世紀」とも呼ばれている。資源としての水は危機的な状況にあり、水を争う戦争が起こる可能性も指摘されている。ハーグ（オランダ）で2000年に開かれた第2回世界水フォーラムでは「世界水ビジョン」（川と水委員会 2001）が策定され、水資源の危機的状況の指摘と解決策が提案された。第3回は2003年に京都をメイン会場として行われ、世界的な人間と水とのかかわりが議論された。国内においても1997年の河川法の改正以来、治水、利水のほかに水環境の意識も高まってきた。そして政策として、人間と水とのかかわりである水文化の回復と育成を図っている（国土庁 1999, 2000）。

しかしながら一方では生活環境の変化により、子どもたちと水とのふれあいが少なくなってきた現実がある。今日では、一日中水辺で遊んでいる子どもの姿を見ることはない。水文化の理解と創造のためには、学校教育の中で子どもたちと水とのかかわりをつないでいくことが必要となっている。それをここでは水文化教育と呼んでおく。

水文化教育は学校教育全体を通じて行う必要があるが、教科学習の中にも明確に位置づけておく必要があると考える。人間の生活や産業や文化と水との関係という視点では、それを扱う教科は社

会科であり、社会科の中に水文化教育を位置づける必要があると言える。そこで、次のようなねらいを持って研究を進めた。

水文化教育を社会科の学習の中に適切に位置づけることにより、子どもたちが人間と水とのかかわりを自分の問題としてとらえ、よりよい人間と水とのかかわり方について考え行動できるようになる。

2 水文化教育の本質

2.1 水文化教育の目標

まず、「水文化」を次のように定義する。水文化とは、「人間と水とのかかわり、かかわり方、その結果生み出されてきた有形無形のものごとの総体」である。

水文化の定義を受けて、水文化教育の目標を次のように設定する。水文化教育とは、「人間と水とのかかわりを水文化という観点でとらえ、人間と水とのかかわり方に対する認識を深めるとともに判断力を高め、人間と水との適切なかかわり方、すなわち水文化を創造すること」を目指す教育である。

「環境 (environment)」という言葉自体が人間と自然とのかかわりを示すが、本研究では、その「かかわり」を文化という観点でとらえる。「かかわり」という点では、鬼頭秀一は、人間と自然と

のかかわりが不可分のものとして存在する状態を「かかわりの全体性」と呼び、「生身」の関係と定義している。一方、人間から切り離された自然との部分的なかかわり方を「かかわりの部分性」と呼び、「切り身」の関係と定義している（鬼頭1996）。水文化教育は、人間と水とのかかわり方について、現在の「切り身」の関係を認識し、「生身」の関係の構築に向けての資質の育成を期すものであると言える。

また佐伯群は、学校を「標準的知識や技能の確実な伝達」の場から、子どもたちに向けての「文化的実践への参加」の場へと変えようと提唱している（佐伯1995）。水文化教育は水文化の創造を通して「文化的実践への参加」を呼びかける教育であると言える。

水文化教育の目標は、「より良い環境の創造活動に主体的に参加し環境への責任ある行動が取れる態度を育成する」（文部省1992）という環境教育の目標と重なる部分が多い。佐島群は、「いつでも」「どこでも」「気軽に」子どもの体全体でふれあうことができる教材を「軸教材」と呼んでいる（佐島1995）。したがって、水文化教育は「軸教材」として水を扱う環境教育であると言える。

2.2 水文化をとらえる5つの視点

社会科に限らず、教材開発をする時には、どのような視点で教材開発をするかということが重要である。三和総合研究所が提唱する、社会と水とのかかわりの種類や内容（三和総研2001）を示したものが表1である。これをもとに本研究では、水文化をとらえる5つの視点を設定した。水文化

表1 社会と水とのかかわり

種類	内容
治水系	治水 防災・治水技術など
利水系	生産 農業・林業・漁業等の産業、伝統工芸、観光など
	輸送 交通（人の輸送）、物流・流通（モノの輸送）など
生活系	情報 情報通信、情報交流など
	生活 飲料水利用、洗濯、食事、水遊びなど
	伝承 民話、伝承など
	行事 祭事・イベント、信仰など
	その他 原風景、精神安定など

（出典：三和総合研究所編『日本の水文化』より）

教育の内容を構成するには、この5つの視点で水文化をとらえることが重要であると考えられる。

①水と暮らし

人間と水とのかかわりを「生活系」の「生活」の内容から考える。人間と水との根源的なかかわりである、飲用をふくむ生活の中での水利用を主な内容とする。生活の中での水利用そのものが水文化を育んだ。

②水と仕事

人間と水とのかかわりを「利水系」の「生産」の内容から考える。生産活動や産業と水とのかかわりをその内容とし、農業・漁業、工業用水といったところが代表的なものである。「水と暮らし」とは異なった水文化の様相を見せる。

③水と往来

人間と水とのかかわりを「利水系」の「輸送」「情報」の内容から考える。鉄道網が発達するほんの百年ほど前まで、物流の中心は水運であった。また、近代以前の社会において情報のみの伝達はありえず、必ず人や物の交流を伴うため1つの視点としてまとめることができる。

④水との闘い

人間と水とのかかわりを「治水系」の「治水」の内容から考える。かつて、洪水は災いをもたらすだけでなく、肥沃な土壌も運んできた。そのため現在のように水を閉じ込めるという発想はなく、さまざまな水文化を育てた。

⑤水と心

人間と水とのかかわりを「生活系」の「伝承」「行事」「その他」の内容から考える。昭和30年代まで井戸などにごく普通に水神を祭っていたことから、水と信仰の関係は深いものがある。水にかかわる精神活動がその内容となる。

3 歴史学習における水文化教育の構想

3.1 歴史学習における水文化教育の必要性

水文化を先に「人間と水とのかかわり、かかわり方、その結果生み出されてきた有形無形のもの」の総体」と定義した。水文化のみならず一般に文化、風土と呼ばれるものについて、「人間と自然とのかかわり、かかわり方」を考えるには、地域

表2 水文化をとらえる5つの視点から見た、水文化の歴史的事象

	①水と暮らし(生活・水道)	②水と仕事(生産・産業)	③水と往来(交通・運輸)	④水との闘い(治水・防災)	⑤水と心(信仰・芸術)
先土器 縄文時代	縄文海進	稲作伝来 漁具の原型、製塩土器	丸木舟		
弥生時代	井桁井戸、掘り抜き井戸	水田の突板・杭列 排水から用水へ	魏志倭人伝	大甕、土手	祭祀の上水 銅鐸の流水紋
古墳時代	明日香の大井戸・苑池、 須弥山	奈良制開拓と溜池 宮都造営に山林伐採	大和川の水運 水城と山城(神室石)	冠波の堀江 茨田の堤	因引き神話 ヤマタノオロチ
飛鳥時代	大宰府の暗渠木樋 冠波宮の水路と水留遺構	鉄製漁具 供御人 野だたら	遺隋使・遺唐使 道徳・道昭の宇治橋 勢田橋、海人部	葛野大堰	大甕祭とミノギ 室生能穴神社 長柄の人柱
奈良時代	平城京の木樋の排水路、 回廊の公衆便所 法華寺の浴室	弘法大師の溝遺構 田上山山作所・田上抽 調として堀	行基の山崎橋	三河川の開削 行基の尾馬池	曲水の宴、万葉集 お水取り(修二会) 木津川水神
平安時代	松村・鉄製たぶの釣板 板神曲げ物の井戸 塩湯と湯屋、懸樋 冷泉院・神泉苑・枇杷殿	行基の深沢池 月波因拍 自然版式製塩 牛糞、插板	延喜式の街路樹と井戸 淀川の水運 山崎津、島村作道・津 三条大橋、海城 大和田治の改修 堀ノ浦の闘い	堀川前造、守備川掾 奈氏の賀茂川付け替え 「加茂川の水、双六のサイ 山法師」	曲水の伝承 神燈造南庭の池と廻水 「枕草子」都の九井 熊野詣、天神祭、葛島神社 淨御堂、貞船神社、鞍馬寺 住吉大社
鎌倉時代	はね釣瓶	岡防佐渡川橋、豆腐 琵琶湖のエリ 掘浜式製塩	専門職「堀取」 過所船(準構造船) 悲所、元寇	僧侶の勧進の治水工事	抹茶 二条河原落書
室町時代	結綿、結袴 銭湯	人糞尿の施肥、水車 寄合、人合山、村木座 間丸、人派式製塩 京の酒造業、生麩	道明船(構造船) 倭寇 琉球王朝の海運	土豪・農民の治水工事 犬の堀、千間堰 環塚集落	枯山水 近江八景
戦国時代 安土桃山	掘り釣瓶井戸 銭湯禁止 大坂城の金水・銀水	池田酒	二十石船、三十石船 安宅船 道領堀	武田信玄の信玄堤 加藤清正の江津堀 秀吉の文津堤・伏見港	利休の名水・待庵
江戸時代	神田上水、主川上水 各地の「水道」 車井戸、産吐井戸 糞尿汲み取り回収業者 屋形船・屋根船・猪牙船 温泉入浴の普及	新田開発(400万町歩に) 鬼島湾・有明海の開拓 用水組合、番水 水争い多発 干鰯の普及 山奉行、山廻役	川村瑞賢の東西廻り回船 角倉了以の大塚川等疎通 御座船、朱印船、舟財船 高瀬舟(利根川水域) 公儀橋、町橋 「越すに越されぬ大井川」	大和川の付け替え 木曾三川の輪中・御用堤 川村瑞賢の淀川治水工事 鉄六流しの禁止 川後普請、御千伝普請 御川普請、自普請	野崎まいり、田おどり 煎茶、浮世絵、鮎船 都七名水、上京九井 西陣五水、番町口屋敷 くらわんか船歌 淀川三十石船歌
明治	近代水道の開始 琵琶湖疎水 男女混浴の禁止 子押しポンプ井戸	水力発電 真珠養殖 八幡製鉄所	水力発電 蒸気船、外輪船 利根川運河 船運から鉄道へ	デ・レーケ、オランダ堤 ワンド、淀川わざと切れ 河川法(低水から高水へ)	海水浴
大正・昭和 戦前戦中	中小地方都市にも水道	ウイスキー蒸留所 芦原湖の養殖	牧方大橋	小樽池の干拓 淀川大堰切れ	びわ湖まつり
昭和戦後 平成	上下水道の普及 内風呂の普及 水質汚濁、公害、赤潮 瀬海湾サクセスストーリー 高度上水処理	農地解放 広葉樹林の伐採 杉・松の大植林 減反政策	本四架橋 青函トンネル 東京アクアライン	遺体公社 多目的ダム 地盤沈下	長崎・広島灯籠流し 琵琶湖八景 観水公園

性・「空間」の広がりとともに、歴史性・「時間」の広がりが意識されなければならない。実践においても「空間」軸のみならず、「時間」軸を組み込んだ教材開発が必要と考える。

環境教育において、「時間」について意識した研究・実践が見られるようになるのは、それほど古いことではない。山下宏文は、現在は過去ときりはなしては存在しないので、現在及びこれからの環境・資源問題を正しく認識させていくためには、過去における人間と環境との関係を正しくとらえさせていくことが重要であると述べ、歴史学習に環境教育の観点を導入した実践を行っている(山下 1987a)。また、先述の佐島は環境をとらえる7つの視点の中に「歴史性」をあげ、「環境への働

き、保全には、長い地球の歴史とともに人類の歴史がある。今日のような環境をつくりだした人間の文明史的視点から環境を見直す必要がある」と述べている(佐島 1995)。これは環境問題を歴史の中に位置づけるという、教材開発をする上で重要な指摘である。

水文化教育とは、水文化を創造することを目指す教育である。社会の近代化、現代化によって伝統的水文化は衰退、崩壊した。新しい水文化を創造するには、伝統的水文化の誕生、成熟から崩壊にいたる過程をふまえる必要がある。その時々の人間と水とのかわり、歴史的な事実から学ぶ必要がある。先述の水文化をとらえる5つの視点で日本における歴史的事象をまとめたのが表2で

ある。水稲耕作の伝来による日本の水文化の誕生、長い時間をかけての醸成、江戸時代における伝統的水文化の確立、近代化と旧河川法の制定による伝統的水文化の衰退、戦後の高度経済成長期、現代化（都市化）による伝統的水文化の崩壊という日本の水文化の歴史をふまえなければ、新たな水文化の創造はできない。歴史学習における水文化教育の必要性はここにある。

水文化とは人間と水とのかかわりであるので、そこでは人間の社会のありようが問題となる。水文化の歴史を見ていくことは、社会の変化を見ていくことでもある。こうした水文化を中心とした歴史の見方は、歴史学および歴史教育の上でも有効であると考えられる。また、水文化の創造とは、よりよい社会の創造という側面もあることを指摘しておきたい。

3.2 歴史学習における水文化教育の指導計画

歴史学習において水文化教育を取り上げる意義は、日本の水文化の誕生、伝統的水文化の醸成・確立・衰退・崩壊、新たな水文化の創造という人間と水とのかかわり、かかわり方を、歴史的事実をふまえて考え理解し、水文化に対する正しい認識と判断を培うことである。その実現のために、次のような水文化教育を中心とする小学校社会科第6学年「日本の歴史」のカリキュラムを立案し、それぞれの単元に対応する小学校学習指導要領の内容をつけたものが表3である。ゴシック体になっている7つが水文化教育を主に扱う単元である。

「1、大むかしのくらし」の単元では農耕の開始を取り上げ、「水と暮らし」「水と仕事」の視点を中心に、日本の水文化の誕生を取り扱う。「4、都づくり」の単元では、東大寺造営にかかわる問題を取り上げ、「水と往来」「水と心」の視点を中心に、伝統的水文化の醸成を取り扱う。「7、農村のくらし」の単元では中世の村落を取り上げ、「水と暮らし」「水と仕事」の視点を中心に伝統的水文化の醸成を取り扱う。「10、江戸のくらし」の単元では、都市としての江戸や大坂、そして農村を取り上げ、「水と暮らし」「水と仕事」「水と往来」の視点を中心に、伝統的水文化の確立を取り扱う。

表3 水文化教育を中心とする「日本の歴史」のカリキュラム

単元	学習指導要領の内容
1 大むかしのくらし (日本の水文化の誕生)	農耕のはじまり
2 ムラからクニへ	古墳
3 天皇中心の国づくり	国土の統一、大陸文化の摂取、大化の改新
4 都づくり (水文化の醸成Ⅰ)	大仏造営、昔話・伝承、天皇を中心とする政治 国の形成に関する考え方
5 貴族のくらし	貴族の生活、日本風の文化
6 武士のくらし	源平の戦い、鎌倉幕府、元との戦い、代表的な建造物や松岡、武士による政治、室町文化
7 農村のくらし (水文化の醸成Ⅱ)	
8 戦国から天下統一へ	キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一
9 江戸幕府	江戸幕府、大名行列、鎖国、身分制度、武士による政治
10 江戸のくらし (伝統的水文化の確立)	歌舞伎や浮世絵、町人の文化
11 新しい世の中への動き	国学や蘭学、新しい学問、黒船の来航
12 明治維新	明治維新、廃藩置県、四民平等
13 新しい世の中と水 (伝統的水文化の衰退)	欧米の文化の取り入れ、近代化
14 富国強兵	大日本帝国憲法、日清・日露の戦争、条約改正 科学の発見、国力が充実、国際的地位が向上
15 アジア太平洋戦争	日華事変、第二次世界大戦
16 日本国憲法	日本国憲法、民主的な国家
17 戦後のくらしと水 (伝統的水文化の崩壊)	オリンピックの開催、国民生活が充実
18 残された問題	国際的地位が向上
19 これからの水文化 (新たな水文化の創造)	

「13、新しい世の中と水」の単元では、明治維新、文明開化といった世の中の近代化を取り上げ、「水と暮らし」「水と往来」「水との闘い」の視点を中心に、伝統的水文化の衰退を取り扱う。「17、戦後のくらしと水」の単元では、高度経済成長期の生活の変化を取り上げ、「水と暮らし」「水と心」の視点を中心に、伝統的水文化の崩壊を取り扱う。「19、これからの水文化」の単元では水文化の現状と、新しい水文化の創造を取り扱う。

小学校学習指導要領では「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に」学ぶこととなっている。その解説では「内容の(1)のアからクに示した歴史的事象にとどめて学習し、取り上げる歴史的事象の扱い方や時間に軽重をつける」こととしている。小学校の歴史学習は通史ではないと言われるゆえんである。本研究では、水文化教育の観点から歴史的事象を精選し、日本における水文化のあり方から学ぶことを提案している。水文化のあり方を意識させることで、「歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深める」(内

表4 単元「都づくり」教材構成一覧表

学習課題	学習事項	資料	理解内容	水文化をとらえる5つの視点		
				暮らし	仕事 往来 闘い 心	
第1次 第1時	聖武天皇はどのようにして大仏をつくったか	・大仏と校舎の比較図 ・国分(尾)寺の分布図 ・大仏づくりの復元図 ・資材の産出地の地図 ・お水取りの写真	聖武天皇は仏の方で国を治めるために大仏をつくった。その資材は水運で運ばれた。お水取りという水信仰にもとづく行事も行われるようになった。	◎	○	
第2時	大仏殿をつくるための木材の調達や運搬はどのようにしたか	・大仏殿と校舎の比較図 ・山作所の地図 ・田上山の写真 ・大仏殿の大きさ、大仏殿づくりに必要な木材の運搬方法、田上山の荒廃と再生、大仏殿の再建時の木材の入手先	大仏殿、宮都を造営するために多数の木材が必要とされ、それは水運で運ばれた。	◎		
第3時	ペーパークラフトの大仏殿を作り、当時の人々の苦勞に気づく。	・資料集(教育同人社2002年版)付録のペーパークラフト	大仏殿の構造と、それをつくった人々の苦勞。			
第4時	行基はなぜ人々に人気があったか	・行基の土木工事一覧表	行基の右教は、はじめ朝廷に御用されたが、水利工事などを通して民衆に人気があることから、聖武天皇は大仏建立に利用した。	○	◎	
第2次 第1時	記紀に見えるヤマトタケルは何を物語っているか	・大仏をつくることのできるような田は、どのようにしてできたか ・ヤマトタケルはどんな人か ・ヤマトタケルの物語の意味するところは	・ヤマトタケルの絵 ・ヤマトタケルの西征・東征の地図 ・吉野ヶ里遺跡の写真 ・田雲大社の復元図	大和政権は上層の正当性を示すため、各地の伝承をまとめ記紀を編纂した。各地の水に関する伝承も取り入れられた。		◎

容(1)) ことができると考える。

4 歴史学習における水文化教育の実践

4.1 単元「都づくり」の実践

大阪府高槻市立松原小学校において「4、都づくり」と「10、江戸の暮らし」の単元の実践をし、歴史学習における水文化教育の有効性を検証した。最初に「4、都づくり」(全5時間)の実践を検討する。

本単元は水文化の歴史的事象として、奈良時代の大仏殿づくりを中心に取り上げる。目標として以下の4点を設定した。

- ①平城京、とりわけ東大寺造営を積極的に調べることによって、奈良時代の社会や水文化の醸成について関心を持つ。
- ②聖武天皇の願いや東大寺造営に関わる人々の苦勞、当時の人と水との関係について考える。
- ③復元図や地図、文献資料をもとに奈良時代と

いう時代の具体的なイメージを持つことができる。

- ④聖武天皇が仏の力で国を治めようとしていたことや当時の農民の暮らしを理解し、東大寺造営の資材はおもに水運によって運ばれたことや古くから水への信仰があったことに気づく。

本単元の教材構成を一覧表にしたものが表4である。

第1次は「奈良の大仏」を取り上げた。第1時では大仏造営を取り上げ、聖武天皇の願いや現代に続くお水取りの行事の意味を教材化した。第2時では大仏殿造営時の木材の運搬と、環境教育の観点から木材を搬出した田上山の歴史的景観を教材化した¹⁾。第3時では資料集の付録のペーパークラフト²⁾を作ることで当時の人々の苦勞に思いをはせた。第4時では行基の事跡を取り上げ、当時の社会の変化を教材化した。木材運搬を中心と

表5 単元「都づくり」抽出児感想カード一覧表

	A	B	C
第1次第1時	大仏づくりは、聖武天皇という人が国を救うために私の力でなんとかしよう！と思って、9年かけてのべ260万人の人の力を使って、いろいろな国から材料を集めて今の奈良の大仏をつくったらしい。しかも、私の通っている学校の体育館よりも大きいし、北校舎よりも大きいので超ビックリ！よくもそんな大きいものをつくる気になるな。私なら1ヵ月でにげだしちゃう恨じょうサンだからずば一人なんだな！しかも、その大仏をつくるのはすごく時間かかってめんどろな作業を9年でするのは、すごくじょうずに人をしきっていたんだろうな。	聖武天皇という人が私の力で国を治めるためににづくり、290万人が9年間もかかってつくったのがわかった。ざいりようをはこんでたのは海や川で、船をつかってはこんでいたことがわかった。	大仏の大きさは、思ったよりとても大きい大仏だということが分かりました。大仏の手の大きさは1mほどあります。その大仏はつくるのに9年間もかかりました。260万人もの人が働いて9年間もかかったのだから、大仏の大きさはすごい大きいんだと分かりました。
第1次第2時	あの大きな大仏が住んでいる大仏殿！なつ、なんと、大仏殿は大仏より大きい！当たり前だけど、…実はあの大仏殿…なんと建て直しをしているらしい！一度目は平安時代に戦争で燃えて建て直し、次は戦国時代に…で今残っているのは最新！ふうただけど、しかも1回目の大仏殿！横はばがなんと！81m？くらいだったと思う！今のくらべると、その差は一目見れば分かる！でも、上の高さは全く同じ！不思議だなあ！しかも、それをつくるために山をひとつ、ハグにしてみましたの！でも今ではもともとどおり…なあってよかったですね！山！	東大寺大仏殿と大仏が作りなおされたことがわかった。でも今より前の東大寺大仏殿と大仏が大きかったことがわかった。あと、前の大きい東大寺大仏殿を作るためのざいりようの木を田上山とゆう山からいっばいってよめて、田上山がハグ山となつてしまったことがわかった。その間1200年もほっといたけど、今はちゃんと木がうわつてなおっている、でもその間森に住む動物は、めっちゃくろうしたことだろう。	大仏殿をつくるのにつかった木は、直径1.5mで長さは30mの大きい木です。つかった数は84本です。その木を切ったところは甲賀山、田上山、伊賀山です。その木を運ぶ道は川をつかって運んだほうが運びやすいということがわかりました。
第1次第4時	行基とゆう人は、ゆうめらしい！しかも人気者！その理由その1！みんなのやくにたつ土木工事をしたから！橋とか、道などを作ったらしい。理由その2！自分のいるお寺以外で布教した1から。すごいね！しかも、その土木工事はなんとお水かんけい！それは水路を作ると、物をはこびやすくなっていいからだって。な…なんとその時代でも税金はあったらしい！まず地方の役所に作った米の3%をおさめ、都に布やとく産物をおさめなければいけなかったなんて、めんどくさいおもう。	行基という人は、みんなのために土木工事をしして、すごく人気だということがわかりました。あと、ぜいきんをおさめるためには、どんなにおくても奈良まで稲や特産物をもつていかなくちやいけないことがわかりました。でも、ぜいきんを出せない人は豪族や大寺院ににげこんで、そこで働いていたことがわかった。	行基は池、堀、橋、架橋、直道、船道、布置場などの土木工事をしたから人気があった。行基はほかの人のために土木工事をした。人々からは「行基ぼさつ」と呼ばれ、そんなにされていた。
第2次	な…なんとヤマトタケルという人は、兄が食じにおくれ、よんでこい！といわれたので兄の手足をひきちぎり、殺した！ので、父はクマソタケルをやっつけてこい！っておいはらってみたが、ヤマトタケルはみごとにおした。イモモタケルもおし、あれくるう海におくさんがとびこみ、つらい人生でかわいそう。と思つたのに、さくところによると、このなははウソ！らしい…しんじてたのに…。	ヤマトタケルは、うそだとも思うけど、兄をころしたりクマソタケルやイモモタケルをたおしたのがわかった。あれくるう海をおさめるために、友が人柱になったことがわかった。	ヤマトタケルは、兄が来るのがおそいとき兄を殺した。クマソタケルをたおした方法は女そうをして相手を安心させた。海があれくるうっていったとき、奥さんが人柱になって海にとびこんだ。

第1次第3時は省略、下線は筆者の加筆

した「水と往来」の視点、信仰・伝承に関わる「水と心」の視点から東大寺建立の意味を考えさせた。第2次は「日本の神話」を取り上げた。今回は、古代の人々の考え、願いなど「水と心」の視点からヤマトタケルを教材化した。

本節では、AからCの3人の子どもたちを抽出し、学習が進むごとくの変容を考察する。抽出児の感想カードを一覧表にしたものが表5である。

第1次第1時は、水文化教育の観点では大仏の大きさを実感し、次時の大仏殿の材料の運搬へつなげていくことを意図したものである。教科書に「全国から集められた人や物資」の地図物資を運ぶ人のシルエット³⁾が出ていたことから、「本当に人が背負って運んだのだろうか？」との疑問が出され、大仏造営自体の材料（銅、ずず、水銀、金）の運搬について考えることになった。B児はこの時点で「ざいりようをはこんだのは海や川で、船をつかってはこんだ」と水運の重要性に気づいている。第2時は大仏殿造営の材料の運搬自体を取

り扱ったが、田上山の植生の回復を示す写真に子どもたちは興味を示している。B児は「森にすむ動物は、めっちゃくろうしたことだろう」、A児は「でも今ではもともとどおり…なあってよかったですね！山！」と、田上山にすむ動物や田上山そのものを共感的にとらえている。この二つの事例からだけでも、子どもたちは具体的資料とりわけビジュアルなもの（写真、絵画など）に興味を示すことがわかる。第3時はペーパークラフト作りを通して、大仏殿の大きさを感じている。「もけいだけでも大変なのに、昔の人はこんなのを自分達の手でやってのけた」と「昔の人」に共感し、「見た感じでは2階建てみたいに見えるけど、1階建てでした」と、その構造まで見ている感想が見られた。第4時はねらいどおり行基の土木工事について、水との関係で見ている。抽出児3人とも行基が民衆に人気があった理由をその土木工事にもとめ、A児は特に水運との関係を重視している。第2次は第1次の歴史的事実を取り扱う授業との違いを際立

たせるため、クイズ形式で授業を進めた。子どもたちはのってきたが、感想にはばらつきが見られた。抽出児3人についてはオトクチバナヒメの入水に関心を持っている。

以上の考察から、子どもたちは田上山の動物、田上山そのものを共感的にとらえ、大仏殿を作った昔の人々、行基を支持した民衆などへの共感を示していることがわかる。人間と水とのかかわり、かかわりの結果としての歴史的事象、水文化を、過去の問題とせず現在の自分の問題としてとらえ、考え、判断した結果が「共感」であったと言える。また、感想に「びっくり」「すごい」という言葉が見られたが、自分の今までの認識を本実践で揺さぶられた結果を、このような言葉として表現していると考えられよう。これも自分の問題としてとらえた結果であると言える。

本実践では、小学校学習指導要領の内容、「神話・伝承」「大仏造営の様子」を取り扱った。そこに「水と往来」「水と心」の視点を入れて授業を構成した。子どもたちは学習課題を自分の問題としてとらえ、考え、判断した結果を、人をはじめとするさまざまなものへの「共感」というかたちで答えてくれた。それを通して、人間と水とのかかわり方についての考え方を変えていった。奈良時代の水文化に関心を持つことで、当時の人間と水との関係について考え、資料をもとに具体的イメージを持ち、その時代の水文化の醸成について理解を深めていった。そのことから、水文化教育を社会科の学習の中に位置づけることは有効であったと言える。

4.2 単元「江戸の暮らし」の実践

次に、「10、江戸の暮らし」（全6時間）の実践を検証する。

江戸時代は、長い時代にわたって醸成されてきた伝統的水文化が確立された時代である。この時代の水文化を学ぶことで、現在の水と人との関係がよりよく見えてくると考える。目標として次の4点を設定した。

- ①江戸時代の町人や農民の生活を意欲的に調べることによって、江戸時代の水文化について関心を持ち、水文化を大切にしようとする。

- ②江戸時代の人々の生活や生産活動と水との関係について考える。

- ③絵画資料や文献資料などを見たり読んだりすることで、江戸時代の水文化について具体的に文章に表して表現できる。

- ④江戸時代に伝統的水文化が確立したことを理解する。

本単元の教材構成を一覧表にしたものが表6である。

第1次は「将軍のおひざもと」を取り上げた。第1時では玉川上水を取り上げ、当時世界一の都市となった江戸の飲料水を教材化した。第2時では長屋の暮らしを取り上げ、し尿処理やごみ処理の問題を教材化した。江戸時代は伝統的水文化の確立期であると言うことができるが、それを「水と暮らし」の視点から考えさせた。また江戸時代の社会が、限られた資源を有効に使い回す「循環型社会」であったことにもふれた。第2次は「天下の台所」を取り上げた。第1時では、廻船を中心とした舟運のシステムによって全国の物資が大坂に集められ、富を生んだことを教材化した。第2時では、その富が江戸時代の文化を支えたことを教材化した。「水と往来」の視点から江戸時代の経済・文化を考えさせた。

第3次は「農村の暮らし」を取り上げた。第1時では生産力の増加を取り上げ、主に用水・排水の重要性を教材化した。第2時では児童を用水路の上流、下流二つの村の農民となったつもりで、その利害を話し合わせた。そのことを通して「水と仕事」の視点のみならず、水の大切さを考えさせた。

この「江戸の暮らし」の単元の実践を通して言えることは、「水」という具体物を取り扱うことで、子どもたちが当時の人だけでなく、現在の人や自分との関係で歴史的事象を考えるようになったということである。第1次1時の授業記録（抄録）が表7である。感想の中で、昔の人の苦勞を感じ、自分の問題としてとらえていることがわかる。

感想の中で「すごい」という言葉が、本時以降にも多くみられた。それは子どもたちの認識では、江戸時代は現在よりも科学技術をはじめ遅れている

表6 単元「江戸の暮らし」教材構成一覧表

学習課題	学習事項	資料	理解内容	水文化をとらえる5つの視点					
				暮らし	仕事	往来	闘い	心	
第1次 第1時	江戸の飲み水はどうやって供給されたか。	・平城京、平安京、鎌倉、江戸の都市景観の違い。 ・人口が増えるにつれて江戸の町に必要になってくるもの。 ・江戸の町の飲料水はどのようにして確保したか。 ・玉川上水のシステム。	・平城京、平安京、鎌倉、江戸の絵地図 ・拡大する江戸の市田地図 ・玉川上水の構造 ・井戸ざらえの想像図	急速に人口が増加した江戸の町の飲料水は、玉川上水をはじめとする水道システムによって供給された。	◎				△
第2時	江戸の廃棄物（ごみ、し尿）はどのように処理されたか。	・江戸の人口の大多数を占める町人は、どのようなところにすんでいたか。 ・長屋に住んでいた人々の暮らし。 ・江戸の人口が増えて困ること。 ・し尿の処理について。 ・ごみの処理について。	・長屋の復元図 ・町人の一日の暮らしの想像図 ・し尿を運ぶ農民（想像図） ・江戸のリサイクル（想像図）	江戸の町のし尿をはじめとする廃棄物は価値があるものであり、利用することで循環型社会が成立していた。		○			
第2次 第1時	なぜ大坂が「天下の台所」と呼ばれるようになったか。	・大坂の船着場の賑わい。 ・大坂が「天下の台所」になることができた理由。 ・「くだらないもの」の語源。 ・越後屋の商売。	・天下の台所のマンガ資料 ・江戸時代の航路図 ・越後屋の店頭の復元図	江戸時代の回船を中心とする水運の発達で、大坂を「天下の台所」とすることができた。					◎
第2時	力をつけた町人はどんな文化を花開かせたか。	・町人がもっていたお金を何に使ったか。 ・歌舞伎。 ・浮世絵。 ・俳句、浮世草子。	・役者絵 ・浮世絵 ・俳句、浮世草子	水運の発達による商業の発展によって富を得た町人は、貴族や武士とは違った文化をつくっていった。				○	△
第3次 第1時	江戸時代、どのようにして耕地を増やしていったか。	・なぜ町人が力を持つことができたか。（商品存在） ・なぜ生産力が増えてきたか。 ・新しい耕地は、もとはどんなところであったか。 ・新しく開発された農具や肥料。	・江戸時代の米の収穫量の推移 ・江戸時代の耕地面積の増加 ・梅海干拓と箱根用水 ・新しい農具の復元図 ・イワシ漁と紀伊、房総の地名	江戸時代は、用水・排水の開発による耕地の増加や、農具や改良によって、生産力を高めていった。					◎
第2時	水不足のとき、江戸時代の農民たちはどのような行動をとったか。	・新田を開発する時に必要なこと。 ・水不足の時、川上と川下の農民はどのような行動をとるか。 ・実際にあった水争いの様子。 ・村の中で公平に水を分ける工夫。	・用水の模式図 ・用水をめぐる「合戦」	江戸時代の農民は水を大切に使い、公平に分配する工夫をするともに、水争いもおこした。					◎

る、貧しい時代というイメージがあり、領国や身分制度の学習でそれがさらに固定概念として根付いているとも考えられる。人間と水とのかかわりでは、本当に豊かな水文化を育んできたのが江戸時代である。そのギャップが「すごい」という言葉になって表れていると言える。豊かな水文化を育んだ人々、そういう江戸時代の人々に子どもたちは共感を持つことができた。また第3次では、あってあたりまえの水を争って「合戦」まで起こることを疑似体験した。前節で抽出した3人の子どもは、次のような感想を述べている。

A児「生まれてからこれまで水不足で困ったことがないので実感はないけど、水がなくなるというのは生きられなくなるし、まして水中心の田んぼはたいへんだろうな」

B児「でも本当にビックリした。ただ用水のためだけに戦争するなんてはじめてわかったよ」

C児「水争いに人が殺されるまでいくとは。死なないでいどにしようと思ってた」

人間と水とのかかわりを自分の問題として考えるようになったと考える。

本実践は小学校学習指導要領の内容、「身分制度が確立し武士による政治が安定したことや町人の文化が栄え」たことを取り扱った。本実践では、その前提としての生活基盤、産業、流通などの発達を「水と暮らし」「水と仕事」「水と往来」の視点から構成した。子どもたちは学習課題を自分の問題としてとらえ、考え、判断したことで、当時の人々に共感するとともに、人間と水とのかかわり方についての考え方も変えていったと考えられ

表7 授業記録 (第1次1時 「江戸の水」抄録)

学習活動と内容	教師の問いかけ	児童の反応
<ul style="list-style-type: none"> 平城京、平安京、鎌倉、江戸の絵地図を見て、景観の違いに気づく。 人口が増えるにつれて必要になってくるものを考え、発表する。 飲料水はどのようにして確保したか考え、発表する。 玉川上水のシステムについて理解する。 百万都市・江戸の飲料水がどのように供給されたかについて、感想を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 徳川家康が幕府を開いたのはどこですか。 これは平城京、平安京、鎌倉、江戸の絵地図 (資料掲示) です、4つを比べて、何か違いはありませんか。 江戸は海に近い、川もたくさんある。昔は利根川が東京に流れていて、沼のような状態で、人もあまり多くは住んでいなかった。それが幕府ができて、この地図 (資料掲示) のように大きくなって、とうとう百万都市になった。急に人口が増えて足りなくなって困ったものはないかな。 百万人分の飲料水はどうやって手に入れたのかな。 江戸の町は海に近い。井戸を掘るとどんな水が出てくるの。 飲料水は川の水を使いました。しかし、絵地図に出ているような川の水を使っているわけではありません。地図 (資料配布) にあるように、クマちゃんで有名な多摩川、井の頭池の水を引いています。 水道と違って、川の水を飲料水に使おうとすると、どんな不都合がありますか。 そのため、どんな工夫をしていたと思う。 街中に入ると、石とか木でパイプを作って地面の下を流している。そしてそれぞれの井戸につながっているんだ。 でも地上を流れているときはどうしてるんだらう。 川沿いに桜の木を植えてたんだ。このころ桜は消毒になると考えられていたんだ。 それでも落ち葉とかたまるよね。この絵 (資料掲示) を見てごらん。何をしている。 落ちないように網を持っている人とか、長屋のみんな総出だね。年に一回、七夕の日にしたんだ。 今日の勉強で分かったこと、思ったこと、感じたことをノートに書きましよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸。 江戸の近くには海がある。鎌倉にも海がある。平城京と平安京は海がない。盆地だ。 平安京には川が流れている。江戸は川がいっぱいいた。鎌倉は三方山に囲まれている。 食料。土地。田畑。儲くところも。 儲く人もいるよ。着る物。やっぱ、お金! 家。水。 川から。井戸を掘る。 塩分が混じっているかも。まずい! 川にごみを捨てる人がいたりとか…。 ごみを捨てないとかね。 今の水道と一緒だね。 ごみを捨てないとか…。 桜餅も? 井戸掃除。 楽しそうだね。 このあと宴会でもしたのかな。 木をくりぬいてパイプを作ったのはすごい。だが玉川の水を流そうって決めたのかな。玉川用水の水で百万人がみんな水を飲めたのはスゴイ。川岸に桜の木をうえて殺菌するなんておもしろい。井戸をそうじするときは、大勢の人を使って、大がかりなそうじをしていたなんてすごい。井戸の大そうじの日はどうしてたなばたなの。あの時の水を今の自分が飲んだら、まずいやらな。

る。江戸時代の人間と水とのかかわり方に関心を持ち、具体的な資料をもとに考えることによって、現在とは異なる伝統的水文化がこの時代に確立したことを理解することが、水文化を大切にしようとする態度につながると考える。そのことから、水文化教育を社会科の学習の中に位置づけることは有効であったと言える。

5 研究の成果と課題

本研究では、主に次の4点について検討してきた。

- ①水文化教育の目標および水文化をとらえる5つの視点。
- ②歴史学習における水文化教育の必要性
- ③6年「都づくり」の実践の有効性。
- ④6年「江戸の暮らし」の実践の有効性。

以上の4点の検討結果から、水文化教育を社会科の学習の中に適切に位置づけることにより、子どもたちが人間と水とのかかわり方についての理解を深めることができたと思う。

一方、本研究において残された課題は次の4点である。

- ①「都づくり」「江戸の暮らし」以外の単元の実践と検討。
- ②生活科および社会科における小学校6年間を見通したカリキュラムの作成。
- ③他教科とのクロスカリキュラムの可能性の追求。
- ④「総合的な学習の時間」におけるカリキュラム開発。

水文化教育の研究と実践は、まだ始まったところである。今後、さらに研究と実践を深めていきたい。

註

- 1) 森林文化教育の観点からの実践報告 (山下1987b) をもとに、水文化教育の観点から再構成した。
- 2) 教育同人社「社会科資料集6年」2002年版の付録「つくろう!世界遺産 パーパークラフト 東大寺大仏殿」を使用。

3) 東京書籍「新しい社会科6年上」2002年版、
p.21。

引用文献

川と水委員会, 2001, 世界水ビジョン, 138pp,
山海堂。

鬼頭秀一, 1996, 自然保護を問い直す-環境倫理
とネットワーク, 254pp, ちくま新書。

国土庁, 1999, 新しい全国総合水資源計画(ウオ
ータープラン21)-いつまでもいつまでも瑞々
しい国土を目指して, 72pp, 大蔵省印刷局。

同上, 2000, 地域を映す水文化・水が導く地域の
未来-水文化の保存再生を通じた水源地域の活
性化方策, 33pp, 国土庁。

文部省, 1992, 環境教育指導資料(小学校編),

119pp, 大蔵省印刷局。

佐伯胖, 1995, 子どもと教育-「わかる」という
ことの意味[新版], 215pp, 岩波書店。

佐島群巳, 1995, 感性と認識を育てる環境教育,
191pp, 教育出版。

三和総合研究所編, 2001, 日本の水文化-水を生
かした暮らしとまちづくり, 184pp, ミネルヴ
ァ書房。

山下宏文, 1987a, 歴史学習における環境教育-
「江戸のごみ処理」に関する教材構成を例に,
社会科教育研究, 58, 62-75。

同上, 1987b, 森林文化教育における奈良時代の
森林文化の取り扱い-「奈良の都市づくりと森
林」の教材構成と子どもの変容-, 森林文化研
究, 8, 220-226。